TSUNAKAN Interview

より良い社会づくりの現場から

対話で育てる未来の種「未来会議」

未来会議事務局長、いわき法律事務所弁護士 **菅波香織**氏



2011年の東日本大震災で、福島県 いわき市は地震の直接的被害だけでな く、津波と原発事故という大きく長期 的な社会問題に直面しました。人口増 加やコミュニティの混在により分断が 深まるなど、多くの課題が噴出しどう にかならないかと考えたとき、「対話こ そ今の私たちに必要なのではないか」 と始まった対話の場が「未来会議」で す。この会議で最も大切にしているの は「ワールド・カフェ」という手法で す。これは意見の一致や同じものを目 指すような、いわゆる合意形成を図る ものではなく、誰もが安心して参加で きるよう「相手の話を否定しない」「ひ とつの結論に決めつけない」というも のです。



浜通り合衆国の様子(2019/11/30)

――震災後の複雑な状況の中で、どの ような対話の場づくりを意識されてい ますか

原発事故以降、さまざまな意見の相 違が表面化しました。移住者や避難者 を受け入れているいわき市では、復興 や賠償のあり方に対する考えの違いが、 他者への偏見や差別感情を引き起こし ていました。それに対してはまず、客 観的事実を伝えることが大切だと考え ています。その上で、一緒に未来を考 えましょうと寄り添うことを心掛けて います。「未来会議」は自由に話せる場 であるがゆえに、異なる立場、考え方 からの意見により、私自身も含め誰か が傷つくこともありました。しかし、 意見の相違こそ対話の財産と捉え、参 加者が「違い」に気が付くことが社会 を変えていく力になっていくと思って います。「人は一人ひとりが尊厳を持っ

> て生きている」のですから、 対話を無視した合意形成は 考えにくいと思います。

---様々なスタイルの「未 来会議」があるそうですね。

はい、例えばゲストを1 人お呼びして、その人の生 き方に寄り添うトークイベ ント「MIRAI BAR」があ ります。深夜のバーのよう な雰囲気です。このような 緩やかな繋がりもあるということを伝えたいという思いで定期的に開催しています。また最近は「浜通り合衆国」(※「浜通り」は福島県東部地域のこと)を開催しています。これは浜通りという地域の未来と、現状の問題を共有したくて始めた自治体の壁を超えた会議です。放射能に対する認識の違いや、安心安全の議論では先に進めないこともありますが、誰かの意見に耳を傾けると、自分の状況を受け止められるようにもなります。

未来会議は、30年、40年先も地域に寄り添い、未来に向けての対話の場を育てることを目標とし、これからも人と人とをつなぐ輪となるような活動を続けていきたいと思っています。

菅波香織(すがなみ かおり)

福島県いわき市生まれ。1998年東京大学工学部化学システム工学科卒業。化学メーカーで研究員として勤務後、2007年弁護士登録。現在は、弁護士法人いわき法律事務所に所属し、未来会議事務局長をつとめる。福島県都市計画審議会委員、いわき市いじめ問題対策委員会委員、未来会議事務局長はまどおり大学代表等。いわき市子ども子育て会議委員、いわき市中心市街地活性化協議会(平地区)委員。5 児の母。趣味はベリーダンス。